

みんなでつくる シーグラスアート

～一色港における待ち時間の活用～



一色港について

愛知県西尾市に位置し、師崎漁港、豊浜漁港と並び愛知県の三大漁港のひとつである。佐久島行きの定期船が出ており、佐久島西港まで約9.4km、約20分で行くことができる。周辺には「一色さかな広場」や「佐久島ナビステーション」などが並び連日賑わっている。

佐久島について

佐久島は、愛知県下にある篠島、日間賀島の三島の中で最大の島である。人口は196人、そのうち65歳以上が108人を占めている（2020年4月1日）。

平成8年からアートによる島おこしが行われた。現在佐久島内に22作品、佐久島ナビステーションに2作品、合計24作品が点在し、佐久島は「アートの島」と呼ばれている。

背景

一色港では待ち時間が多く発生している。

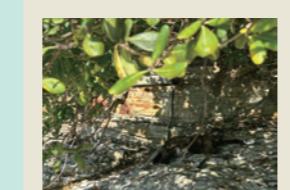
観光客が多い時期は、希望渡船時刻の船が定員に達してしまうと1時間以上後の便に乗らなければならない。一色港までのアクセスは車、バスが占めているが、西尾駅からバスで来た場合、平均で約30分の待ち時間が発生してしまう。

目的

一色港での待ち時間を退屈なものにしないこと、佐久島への期待度・理解度を深め、通過点も思い出の一部にしてもらうことを目的とする。

西尾駅	一色さかな広場 佐久島行渡船場	一色港	佐久島東港	佐久島西港
発	着		発	
—	—	待ち時間	発	
8:40	9:07	23分	7:00	7:07
10:15	10:42	48分	8:30	8:37
12:45	13:12	28分	10:10	10:17
14:45	15:12	38分	12:30	12:37
17:15	17:42	8分	14:50	14:57
			17:15	17:22
			18:20	18:27

佐久島行き渡船時刻表



4月 一色港・周辺観察調査

6月 佐久島内観察調査

10月 シーグラス収集

11月・12月 ワークショップ

ヒアリング

平成8年度からアートによる島おこしが開始された。平成22年あいちトリエンナーレに伴い、佐久島では、「あいちアートの森」が行われたこと、平成29年の「ユーキャン新語・流行語大賞」にて「インスタ映え」の年間大賞に伴い、若者へのアートの認知度が高まり、観光客の増加からアートの需要が高まったと考える。



出典：西尾市役所佐久島振興課

行動観察

日付：5月2日（金） 日付：5月31日（土）
時間：7:40～9:30 時間：13:00～13:40
利用者数：9人 利用者数：30人
待ち時間：平均17分 待ち時間：平均21分
最長36分、最短6分 最長40分以上、最短9分



日付：5月31日（土）
時間：9:45～11:30
利用者数：113人
待ち時間：平均57分
最長110分以上、最短2分

スマートフォンを見て過ごす人が多く、過半数を占めていた。全3回の待ち時間の平均は32分、1時間以上待っている人もいれば、出発時刻間際に来ている人もおり、待ち時間は人によって大きく変わることが分かった。

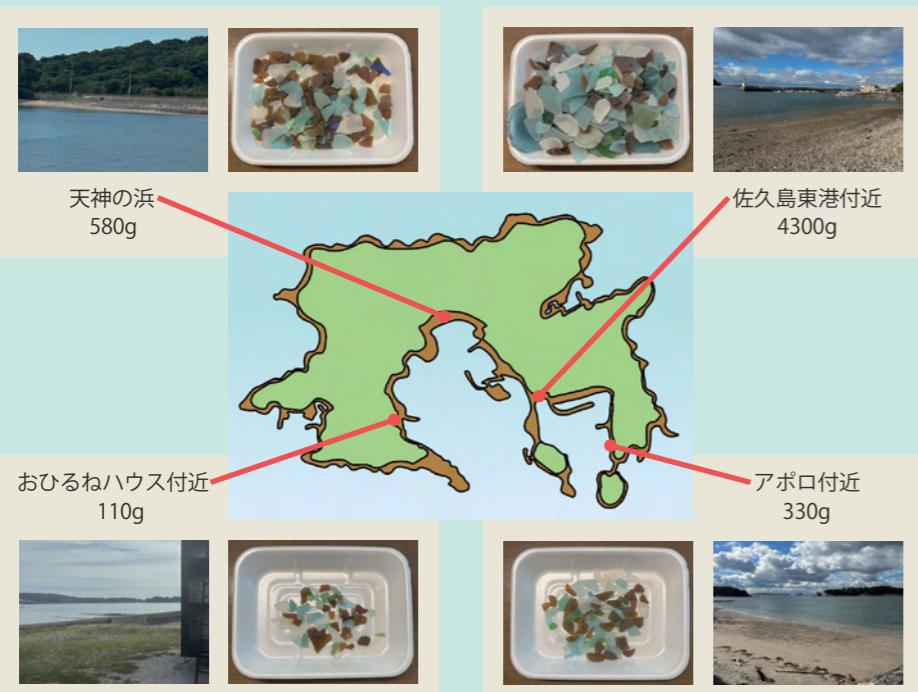
佐久島が「アートの島」であること、アートの需要に着目をし、素材にこだわった企画を検討した。そのため、海岸が多くある佐久島で拾ったシーグラスを使用し、ステンドグラスアートの制作を提案した。行動観察から、待ち時間は人によって大きく変わることから、1人当たりの作成量を指定せず、つくり繋げていくことで、自分の好きなタイミング、渡船時間までの短い時間でも気軽に参加できるようにした。

タイムスケジュール



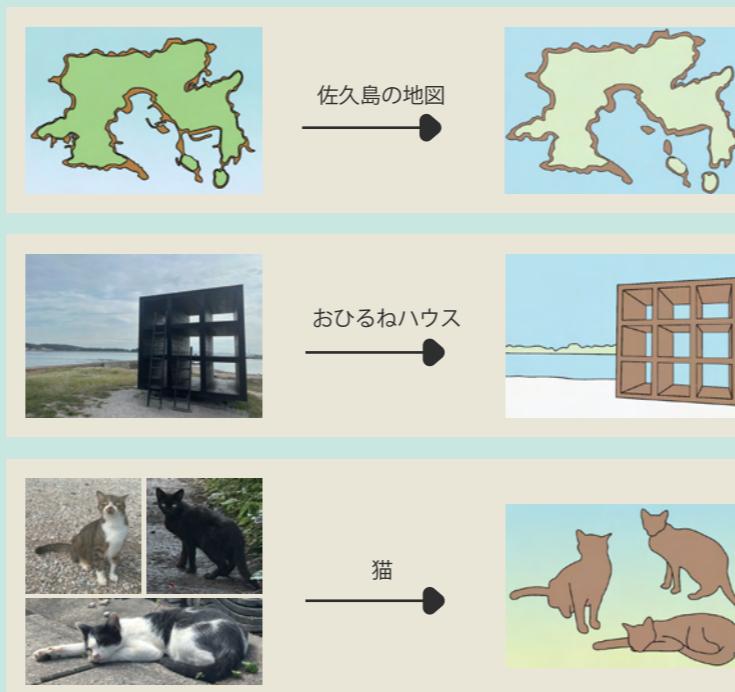
シーグラス収集

A3のステンドグラスを3枚作る想定で、佐久島に4回渡航し、シーグラスを収集した。また、西尾市役所佐久島振興課の職員の方にシーグラスの提供かつ、佐久島のシーグラス収集場所の情報を教えて頂いた。最終的に約 7500g 採取出来た。佐久島内でも場所により拾える量、色、形、大きさ、透明度が多種多様であった。



デザイン案

収集から、シーグラスは茶色・水色・緑色・透明色が多く占めていることが分かった。そのため前述の色で、できるデザイン案を検討した。佐久島の地図、アートの1つである「おひるねハウス」、佐久島は「アートの島」の他に「猫島」とも呼ばれていることから、自ら佐久島にて撮影した猫を簡略化したものを探用した。



ステンドグラス制作

収集したシーグラスを洗浄・殺菌・乾燥し、色ごとに分類する。収集したシーグラスは、曇りがあるものが多くあったため、UV レジンを塗ることで、ステンドグラスの、光を通した時の美しさを表現した。また透明度の高いシーグラスを見て、その煌びやかさに興味を示し、参加を促すことを期待した。一方、ありのままのシーグラスの美しさも知ってもらいたいため、手を加えないものも混在させた。



試作を行い、シーグラスを貼ってから縁を描くのか、縁を描いてからシーグラスを貼るのかを検討し、より美しく見える縁を描いてからシーグラスを貼ることを採用した。



企画開催時、人が密集してしまい参加したくてもできない人や、やりにくさを考慮し、A3 のアクリル板を 8 分割にすることで、手に取りやすくなり、以上の問題を解決した。



参加者に乾燥すると透明になる接着剤でシーグラスを貼ってもらい、ステンドグラスアートを完成させる。

木枠制作

シーグラスの角が取れた形の美しさを簡略化したデザインを選定し、レーザーカッターで加工をする。

第1回ワークショップ

日付 : 11月 27 日 (木)
時間 : 9:00 ~ 16:00
スタッフ : 学生 2 名
参加人数 : 2 人



話しかけてくれる方も 5 人あり、次のワークショップに参加したいと言っていたとき、本企画を知つてもらう機会となつた。

第2回ワークショップ

日付 : 12月 6 日 (土)
時間 : 9:00 ~ 11:30
スタッフ : 学生 4 名、教員 1 名、職員 1 名
参加人数 : 13 人

参加時間 : 平均 23 分
最長 60 分
年代 : 平均 30 代
参加割合 : 観光客 70%



企画終了時にアンケートを行い、「楽しかった、思ったより難しくてワクワクした」、「みんな個性が出ていてかわいいかった」など待ち時間に企画に参加をして前向きな意見が多くみられ、約 8 割がとても楽しく待ち時間が過ごせたと回答、参加した全員が完成したステンドグラスアートを見に来たいと回答した。

展示

完成したステンドグラスを一色港に置かせて頂いた。



まとめ

アンケート結果、また企画時に記念撮影をしている方も見受けられ、待ち時間を楽しいものに、佐久島までの通過点も思い出にしてもらうことができたと考える。私は企画を行うにあたり初めて佐久島を訪れ、島の人の温かみや自然の良さを感じた。本企画を通してより魅力を知つてもらい、初めて、再び訪れるきっかけとなり、さらなる佐久島の発展に繋がってくれたら嬉しい。